

AIに負けない！「言い聞かせる」から「考えて行動させる」子育てへ

# 賢い子を育てる 夫婦の会話

2019年5月11日刊行

つるの剛士さん  
推薦

株式会社あさ出版（代表取締役：佐藤和夫、所在地：東京都豊島区）は、天野ひかり（著）、汐見稔幸（監修）『賢い子を育てる夫婦の会話』を2019年5月11日（土）に刊行いたします。

## 夫婦の会話で磨かれる5つの力

毎日忙しくて、夫婦の会話がなくなっていますか。勉強しない、友だちや学校の話をしなくなった、自分を責める、きょうだいゲンカが多い、この原因は「夫婦の会話」かもしれません。子どもは夫婦の会話を聞いて影響を大きく受けているんです。本書ではNHK教育テレビ『すくすく子育て』でキャスターを務め、自らも子をもつ母である著者が、「夫婦の会話」で磨かれる子どもの「5つの力」と「夫婦の会話」の心得とコツについて解説いたします。

- ①『コミュニケーション力』      ②『多様な価値観を受け入れる力』      ③『非認知的能力』  
④『安定したアイデンティティ』      ⑤『問題を見つけ出す力』

刊行日 : 2019年5月11日（土）  
価格 : 1,512円（税込）  
ページ数 : 260ページ  
著者名 : 天野ひかり（著）、汐見稔幸（監修）  
ISBN : 978-4866671314

### 【目次】

はじめに

- 第1章 賢い子どもは「夫婦の会話」でつくられる  
第2章 夫婦の会話を変えると、子どもはこう育つ  
第3章 “ありのまま”を認めると、夫婦関係も子育てもラクになる  
第4章 子どもの「器」を育む夫婦・家族の会話のコツ

### 著者プロフィール

**天野ひかり（あまの・ひかり）**



上智大学文学部卒業。元テレビ愛知アナウンサー。現在はフリーアナウンサーとして活躍。フリー転向後はNHKの番組を中心に出演し、2008年3月まで教育テレビの番組『すくすく子育て』でキャスターを務める。自身の結婚、出産、育児と仕事の両立を経験したことで、子育ての重要性を認識。「NPO法人親子コミュニケーションラボ」を立ち上げる。子どもの自己肯定感を育むための親子のコミュニケーション力をのばす講座や講演を全国の自治体や幼稚園、学校、企業などで開き、今までの受講者は5万人以上。ベストセラー『子どもが聴いてくれて話してくれる会話のコツ』著者。

### 監修者プロフィール

**汐見稔幸（しおみ・としゆき）**

1947年大阪府生まれ。東京大学名誉教授、日本保育学会会長、白梅学園大学名誉学長。専門は教育学、教育人間学、保育学、育児学。2017年告示保育所保育指針改定時には、厚生労働省社会保障審議会、児童部会保育専門委員会の委員長を務める。自身も三人の子どもの育児を経験。現代の父親・母親の応援団長を目指している。保育者による本音の交流雑誌『エデュケーレ』編集長ほか、21世紀型の身の丈に合った生き方を探るエコビレッジ「ぐうたら村」村長など多数務める。

## 『賢い子を育てる夫婦の会話』



## 子どものテストの点がよくなかったとき



母「どうして、こんな点数なの？」  
子「うん、難しかった」  
母「勉強しないからでしょ！ やり方が悪いのよ。  
間違えたところ、やり直したの？」  
子「やってない」  
母「やっぱり。そういうところがダメなんだよ」



母「あら、今回は、点数低かったね」  
子「うん、難しかった」  
父「じゃあ、みんなできなかつたんじゃない？」  
子「うん、平均点も低かったよ」  
父「平均点低かつたんだ。がんばったのよね」  
子「でももっと完ぺきにすべきだったね」  
父「えらいな、こんな難しい問題、よくがんばったね」  
子「うん。これから、できなかつたところ、見直そうと思って」  
母「見直すこと、大切だね。体壊さないようにね」

### 相手を信じる言葉をかけ合う

同じ言葉をくり返すことにより、相手に共感すること、相手のつらさをいっしょに乗り越えることが大切です。相手が、よくない結果で悩んでいるとき、励ましたり、「次は大丈夫だよ」と言ってみたり、いろいろアドバイスできないか考えてしまうものです。でも、**基本は、相手の思いに寄り添うこと**です。そして、その中で、本人が次にすべきことを考えられることが大切です。結論は、自分の中にあるはずで

毎日の夫婦の会話でもそんな言葉をお互いにかけてあげれば、子どもにも自然にそんな言葉がかけられると思います。

## 子どものわがママが止まらないとき



母「ダメ、買いません」  
子「ほしい〜」  
母「そんな無駄なお金はありません」  
子「けち」  
父「ダメなものはダメだ」



母「それがほしいなんてなかなかセンスいいね」  
子「うん、だから買って」  
母「ほかのどこが違うの？」  
子「ここのつくりがこう違う！」  
母「なるほど。家にあるものとの違いは？」  
子「それはね……」  
父「おお、そんな性能の違いがあるのか、よく知ってるね」  
子「これだと、こんなこともできて、パパの役にも立つんだよ」

### 「わがママ」を「提案」にさせる言葉かけ

子どもが何かをほしいと言ったときこそ、**提案する力をつけさせるチャンス**です。自分のほしいものを、相手に認めさせて買わせるために、頭と言葉をフル活動させることが大切です。

日頃の夫婦の間でも、何かほしいと思ったときは、お互い「ダメ」の一言で終わらせないように、いろいろなアイデアや情報を出し合いましょう。本当に必要なのか、ほかの考え方のほうが問題解決にならないのか、子どもといっしょに考えられるといいですね。**そうしたやりとりを聞きながら、子どもは、人を説得する言葉を学んでいきます。**

書評・コラム・著者インタビュー等のご検討をいただければ幸いです。  
情報掲載、画像提供の問い合わせ